

漢文 唐詩（二）

## 春曉しゅんげう

孟浩然まうからん



講師  
渡辺 恭子

理解を深めるために

### ■学習のねらい■

「唐詩」の一回目。「春曉」を学習します。「春曉」は、日本人にも親しまれてきた有名な詩です。詩人がどういう状況で、何を思っただのか、一緒に勉強していきましょう。

\*

\*

\*

### 「唐詩」について

「唐詩」とは、唐代（日本でいうと奈良・平安時代ごろ）に作られた詩のことです。「唐」は、詩が最も盛んになった時代で、詩の評価が人物評価にまでなったほどです。役人になるための難しい試験（科挙かきよ）にも、詩を作る問題が出題されました。ですから、「唐詩」は、三千年の歴史を持つ中国の「漢詩」の中でも、最も完成度が高いのです。

### 「春曉」の構成法

「春曉」は、「春の明け方」という意味です。この詩は、作者である孟浩然が、寢床の中で感じた、春の朝の様子をうたっています。また、「春曉」は、四つの句からなっていますが、このような構成法を「起承転結の構成」といい、現在も文章や物事の組み立てに使われています。それでは、「春曉」の詩を具体的に見てみましょう。

#### ●第一句（起句）

寢床の中にいて、うとうとしながら春の訪れを感じている作者の様子がうたわれています。「起句」は、歌い起こしです。まず初めに読者を引きつけなければならぬところなので、作者は力を入れて作ります。

#### ●第二句（承句）

眠りから完全には覚めていない作者の耳に、鳥の鳴き声が飛び込んできます。この二句目は初めの起句を受けてこれをさらに発展させる役目をします。

●第三句（転句）

前半二句の明るい情景から一転して、「夜」「風雨」という言葉が暗い雰囲気を感ぜさせます。三句目で場面が転換するのです。

●第四句（結句）

庭の花はどのくらい散ったかしら、と作者の意識が花に移っていくところで目が覚めます。第四句は全体のまとめです。

ここに出てくる重要語句の意味を理解しましょう。

■語句の意味

- 暁あかつき …………… 夜明け方
- 覚おぼえず …………… 気がつかない
- 処しよ処 …………… あちらこちらで
- 啼てい鳥 …………… 鳥の鳴く声。鳥のさえずり
- 夜来やらい …………… ゆうべ
- 声 …………… 音
- 知る多少ぞ …………… 知る+疑問詞||知らない。わからない

※口語訳「どのくらい散ったのかしら」

作者「孟浩然」と「春暁」の作られた背景について

孟浩然是、唐代自然詩人の先駆者として有名です。彼の詩のうまさは拔群だったのですが、残念ながら役人になるための試験（＝科擧）には、合格することができませんでした。だからこそ、この詩のように、夜が明けたのにも気づかず、ぬくぬくと春のねむりを貪る詩を作ることができたのです。

## 唐詩〈二〉

春 曉  
しゅん げう

孟浩然  
まう かう ねん

春 眠 不 覺 曉  
処 処 聞 啼 鳥  
夜 來 風 雨 聲  
花 落 知 多 少

『唐詩選』

### 【現代語訳】

- ①春の夜の眠りは（とても心地よく、夜が明けたのにも気づかずに（寝床の中でうとうととして）いる。
- ②あちらこちから鳥のさえずりが聞こえてくる。
- ③（そういえば眠りに落ちる前に）昨夜は、しきりに風と雨の音がしていた。
- ④（その風と雨にたたかれて、庭に一面に咲いていた）花はどれくらい散っただろうか。

講師  
渡辺 恭子